自由南アフリカの声
Voice of Free South Africa

～１冊の本が人生を変える～

2024年１月
No.82 最終号

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会
Together with Africa and Asia Association（TAAA）

最終号　31年記念特集

目次

- 2023年12月解散のご報告（野田千香子　久我祐子）……2
- 31年間の TAAA の歩み（野田千香子　久我祐子）……3
- 会報最終号メッセージ（平林薫）……13
- ご協力いただいてきた主な団体……15
- 共に歩んだ日本の皆さんからのメッセージ……16
- 共に歩んだ南アフリカの皆さんからのメッセージ……29
- 寄付金や本などを下さった方々……36

2023年12月TAAA解散のお知らせ

会員、支援者の皆さまへ

日頃は大変お世話になっております。

前号（81号）の会報でご連絡しました通り、2023年12月31日に特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会（TAAA）は解散しましたことをご報告いたします。
2022年９月末に国内での活動拠点であったTAAA作業所が諸事情により使用できなくなり、活動の要であった本や教材・教具の収集と南アへの発送も終了しました。
この現状を踏まえて、理事会で今後の方向性への話し合いを重ねた結果、多くの方々にご支援いただいたお蔭で「アパルトヘイト後の南アの教育の立て直しを日本の市民も応援していきたい」という設立当初の目的は、概ね達成できたのではと判断し、解散を検討することになりました。2023年５月21日開催の会員総会で、会員の皆さまに審議していただいた結果、解散議案が可決され、解散手続きを行いました。

長年お読みいただいていた「自由南アフリカの声」も最終号となりました。TAAAは1992年に市民グループとして設立されましたが、当時南アフリカは、アパルトヘイト関連法の撤廃後、民主主義国家に生まれ変わる過程で、武力抗争も頻発し、生みの苦しみを味わっていた時期でした。今回この最終号を作成するにあたって、当初の会報を読み返し、私たちは思わず姿勢を正しました。この生みの苦しみがいかに苛酷だったかを改めて認識したからです。非識字率60％というなかで、新生南ア誕生の成否を決める一人一票の1994年の総選挙に、どれだけの人が参加できるのかという大きな不安感のなかで、大人の識字活動は火急を要していたのです。同時に文字の獲得は、尊厳の回復という個人の闘いでもありました。そのようななかで、TAAAは女性の成人識字活動グループへ本を送りだしたのが、活動の始まりでした。

当時あるジャーナリストの方がTAAAのことを「市民の素朴な思いを原点とし、海外支援に素人のグループが手探りで本集めをしている」と表現してくださいました。「31年間のTAAAの歩み」は、そのような団体が最後まで小さいまま、南アと日本の変化も背景に、手探りを続けながら、南アの子どもや大人たちと日本の支援者の方々と共に歩んできた活動記録です。お読みいただけると幸いです。また、この度は多くの支援者の方々が心温まるメッセージをお寄せくださいました。　厚くお礼を申し上げます。

皆さまの長年のご支援に心より感謝申し上げます。

2024年１月１日

特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会
創設者・事務局長　野田千香子
代表　久我祐子

31年間のTAAAの歩み

●1992年～2001年

年度	主な活動	英語の本寄贈(冊)	その他の寄贈	助成団体
1992	●「アジア・アフリカと共に歩む会」が市民グループとして設立。 ●英語の本を集め、ヘレン・ジョセフ女性開発センター（キンバリー）、イシナンバ地域開発センター（東ケープ州）、MEI（メソジスト教育協会）（ハウテン州）に送る。	7,855		
1993	●送り先に ELETS（ダーバン）が加わり、現地 NGO を介して、南ア各地の学校やコミュニティセンターに英語の本を送り始める。	28,540		庭野平和財団
1994	●図書活動支援 ●南アに初訪問　現地の NGO（ELET、MEI）とミーティング **●商船三井株式会社から海上輸送の無償支援を受けることになる。無償支援は最後の2022年まで続く（2019年からはオーシャンネットワークエクスプレスジャパン株式会社が引き継ぐ）**	14,698		
1995	●図書活動支援　**●移動図書館車を送り始める** ●ザンビアの環境人口問題センターに本を寄贈 ●神戸被災外国人学校への支援活動　●南ア視察訪問	31,365	移動図書館車　2台 通学バック　819個	国際ボランティア貯金助成金 埼玉県国際交流協会
1996	●図書活動支援　●MEI に移動図書館ベースを建設 ●南アを訪問し、現地 NGO（MEI と ELETS）同士の交流のきっかけを作る **●南ア NGO（ELET）職員を日本に招く。埼玉県熊谷図書館にて研修受講、支援者に講演**	20,616	移動図書館車　2台	国際ボランティア貯金助成金
1997	●図書活動支援　●南ア視察訪問	13,176	移動図書館車　3台 通学バック　550個	国際ボランティア貯金助成金 埼玉県国際交流協会
1998	●図書活動支援 ●南アからの留学生を招聘し講演会「アパルトヘイト終焉から５年」を開催 ●埼玉県国際貢献賞を受賞	34,210	移動図書館　1台	国際ボランティア貯金助成金 埼玉県国際交流協会
1999	●図書活動支援　●南ア視察訪問 ●南ア国連ユネスコ日本人職員と移動図書館車運行の事前調査を行う	10,100	地球儀　9個	国際ボランティア貯金助成金 埼玉県国際交流協会
2000	●図書活動支援　●車送付記念式典　●ケニアに105冊の英語の本を送る ●河合塾との支援協力会議	13,804	移動図書館車　3台 カバン　1000個	埼玉県国際交流協会
2001	●図書支援活動　●ボツワナの孤児施設へ3,680枚のＴシャツを送付 ●河合塾から大規模な本収集協力を受ける（全国の高校270校と河合塾校舎から3万冊の英語の本寄贈） **●ジョハネスバーグ在住の平林薫が TAAA 駐在員となり、南ア各地のカウンターパートに連絡、視察訪問、会議をするようになる。**	28,863	顕微鏡　10台	埼玉県国際交流協会

＊青字は南ア以外への支援

1990年～1994年は、日本も含めて世界中のマスコミが南アフリカ共和国のニュースを連日、大きく取り上げていました。南アフリカは13%の白人系が多数の黒人を、奴隷のように扱っていた悪名高いアパルトヘイト制度から、民主的な平等を表明した民主主義の国に生まれ変わろうとしていたのでした。居住地も学校も職業も店舗も乗り物もすべて人種によって隔離されたアパルトヘイトによる負の遺産を覆していくのは、並大抵のことではないことを知りました。南アの民主化の手伝いをしたいと願っていた野田千香子は、来日した黒人の地域のリーダー、ユネス・コマ

ネさんから「学校にも行けず字の読めない人が大勢いる。特に女性は学校に行けない人が多かった。識字教室のための英語の本がほしい」と聞き、現会長の浅見克則らと識字用に中学の英語の教科書や子どもたちのための英語の本を集め、小包でコマネさんに送りました。当時は個人的に小包で送ることだけを考えていました。送り出して半年したころ、コマネさんからの礼状が届き、日本の中学校の英語の教科書を見ながら、英語を学ぶ大人の女性たちの写真も送られてきました。

しかし、南アでの教育格差を解決していくことがどんなに重要な課題であるかという事実を知るにしたがって、英語の本収集も本格化し、多くのマスコミも報道に協力してくれました。1992年４月に設立した「アジア・アフリカと共に歩む会」Together with Africa and Asia Association（TAAA）は、年内に8000冊、翌年には３万冊近くの英語の本や教科書を送ることができました。こうなると郵送代が賄いきれなくなりました。コマネさんのシンポジウムに参加されていた商船三井株式会社の元副社長にお願いしたところ、無償で海上輸送を快く引き受けてくださいました。以後、年平均１万冊以上の書籍や移動図書館車の輸送支援を継続してくださいました。送付先も南ア各地に広がり、日本での本梱包や本引き取り作業のボランティアも増え、TAAAも個人の活動から団体らしくなっていきました。

毎月一度、さいたま市の作業場にボランティアが集まり、荷をほどき、分類して段ボールに再梱包しました。ある時は３名、ある時は20名位も集まり、せっせと詰めた箱の重量と冊数を箱の外側に書きます。高校生や会社の方々がこぞって見えることもありました。つい楽しくお話しなどしてしまうと冊数が分からなくなり、数え直しで捗らないこともありました。詰め終った段ボールにはラベルを貼り、出荷する直前には、数百個の段ボールの山となり、壮観な眺めでした。

1994年には初めて野田千香子と下谷房道が南アの本受取先の二つの団体を訪問。ジョハネスバーグ近郊の白人の会社員ベントレイさんがリーダーとなって、黒人居住区への教育援助を行なってきた市民グループ MEI と、貿易港ダーバンで同じくアパルトヘイト時代の苦難を乗り越えて、広域にまたがる黒人居住区の学校をまわり、民主教育を実施してきた NGO の ELETです。ELET の職員には白人もカラードもインド系の人もアフリカ系の人もいました。アパルトヘイト下にあっても国内で人種を超えて行われてきた反アパルトヘイトの活動が国を揺るがしてきていました。この後これらの団体は TAAA から送った中古の移動図書館車も運行するようになりました。

ベントレイさんが「近くの黒人居住区だけでも40万人いる。移動図書館を走らせられたらいいな」と口走られたのが、後々、日本で廃車となった中古の移動図書館車を送るきっかけになったのでした。図書館の職員だった会員の北爪建一は全国の図書館車の事情に詳しいでした。大型免許も持つ浅見克則は遠方までしばしば車を引き取りに行きました。移動図書館車を送り出すまでには、早くて半年、１年以上、輸出許可証の取得を待たねばなりませんでした。大変ありがたいことに、その長期間、同級生や知人の地主のかたがたの土地に無料で駐車させていただきました。毎回、快くバスやトラックのような大型車を預かって下さる方々がいらっしゃらなかったら輸送は実現しなかったのです。毎日新聞の南

ア特派員だった福井聡さんは南ア側での輸入手続きに奔走してくださいました。また当時ユネスコ南ア事務所に勤務されていた菊川穣さんは、移動図書館運行の事前調査に力を発揮してくださいました。多くの皆さんの協力があって、車を送り出すことができたのでした。

予備校大手の河合塾が全国に呼びかけ、数万冊の教科書類を集めて独自に送ってくれたり、インターナショナルスクールから大量の本の寄付の申し出を受け、何回も引き取りにいくこともありました。

訪問した学校で大勢の子どもたちがニコニコ可愛い笑顔で移動図書館車に群がっている姿に接し、また授業で先生が日本から送った本の読み聞かせをし、その後、本について皆が活発に話し合いをしている姿を見る事ができたのは本当に嬉しい限りでした。確実な実績を認められて国際ボランティア貯金助成金をいただき、黒人居住区の真ん中に書籍と移動図書館車を保管する立派な移動図書館ベースを建設することなどもできました。10年の間に、TAAA の活動は地に着き、国内でも南アでも着実に発展してきました。10年間で本は20万冊を超え、移動図書館車は11台を送ることができたのでした。

会発足10年目の2001年は TAAA にとって画期的な年でした。当時ジョハネス在住だった平林薫が TAAA の専属の駐在員になり、南ア各地のカウンターパートとの連絡や調整を務めてくれるようになったのです。

（野田千香子）

当時TAAA が支援してきた主なNGO、行政

●2002年～2011年

年度	主な活動	英語の本寄贈（冊）	その他の寄贈	助成団体
2002	●図書支援活動　●TAAA 10周年記念式典　●TAAA ウェブサイト開設	19,390	移動図書館車2台	
2003	●図書支援活動　●プロジェクトマネージャー、ストリートチルドレン施設を訪問　●南ア視察訪問　**●駐在員がダーバンに移住しプロジェクトマネージャーになる。TAAA 南ア事務所開設**　●JICA 草の根事業「HIV/AIDS ピア教育事業」を現地 NGO の ELET と協力体制で開始　対象校15校（クワズールーナタール州）　●移動図書館車寄贈先の団体から年間活動報告書を受け取ることになる（その後約10年間続く）	14,344	移動図書館車 1台	国際協力機構（JICA）
2004	●図書支援事業　●HIV/AIDS ピア教育事業（JICA）　●河合塾から本収集協力を受ける（27,829冊）　●来日中の南ア教育大臣と面会	40,050	移動図書館車 1台	国際協力機構（JICA）
2005	●図書支援活動　●HIV/AIDS ピア教育事業（JICA）	13,662	移動図書館車 4台 算数セット　77箱 椅子　60脚	国際協力機構（JICA）
2006	●図書支援活動　●南ア視察訪問　●TAAA の活動規範を作成・公示 ●学校設備・教材を整える「ムルンギシ学費支援基金」を開始	15,753	移動図書館車 7台 算数セット　80箱 サッカーボール　7個	埼玉県国際交流協会 ひろしま祈りの石国際教育交流財団
2007	●図書支援活動　●南ア視察訪問 ●JICA 草の根技術協力事業「南ア健康教育と学校菜園事業」対象校24校（クワズールーナタール州ンドウェドウェ）	18,247	移動図書館車 1台 算数セット　80箱 サッカーボール　13個	国際協力機構（JICA）
2008	●図書支援活動　引き続き南ア各地に本を送る一方で、プロジェクトマネージャーが TAAA 南ア事務所周辺の学校を直接訪問し支援し始める。 ●南ア視察訪問　●現地 NGO の ELET と協働で学校図書室開設支援対象校20校　●南ア健康教育と学校菜園事業（JICA）　●学校敷地内に果樹などの植樹活動　対象校23校 ●現地母語の訳を日本の絵本に貼る「ぐりとぐら」プロジェクトを開始	15,964	移動図書館車 1台 算数セット　118箱 サッカーボール　21個 縄跳び　2020本	国際協力機構（JICA） 埼玉県国際交流協会 ラッシュジャパン
2009	●図書支援活動　現地プロジェクトマネージャーが移動図書館車バスを運行開始　TAAA が直接対象校を巡回し図書支援を行うようになる。図書室設置も始める。ンドウェドウェ地域　30校　●南ア視察訪問 ●JICA サポーターの北澤豪氏（元サッカー選手）の現地訪問対応 **●日本の反貧困シンポジウムや会議に参加**	15,203	算数セット　10箱 裁縫セット サッカーボール　10個	国際ボランティア貯金助成金 ひろしま祈りの石国際教育交流財団
2010	●図書支援活動　ンドウェドウェ（クワズールーナタール州）を中心に移動図書館車運行、図書室設置　教師研修など　対象校40校　●南ア視察訪問　●学校菜園プロジェクト「学校を拠点とした地域農業促進プロジェクト」開始　クワズールーナタール州ウグ郡　3地域（JICA 草の根パートナー型事業）　●Than 球プロジェクト（多摩大学学生・卒業生）がサッカーボール収集に協力　774個寄贈	13,573	算数セット　34箱 裁縫セット多数 サッカーボール112個	国際協力機構（JICA） 国際ボランティア貯金助成金
2011	**●TAAA 代表交代　創設者で代表を務めていた野田千香子が事務局長となり、副代表だった久我祐子が代表になる　●TAAA 南ア事務所がダーバンからウグ郡ヒバディーンに移転**　●図書支援活動　ウグ郡2地域（クワズールーナタール州）対象校20校中心　移動図書館運行、図書室設置　司書教師研修など　●学校菜園プロジェクト　ウグ郡3地域25校（JICA）　●サッカープロジェクト開始　●南ア視察訪問　**●東日本大震災の被災地支援「本とお友だち」キャンペーンを立ち上げ、募金活動、本・文具・玩具の収集、配布活動を行う**	12,800	算数セット　52箱 縄跳び　150本 サッカーボール751個	国際協力機構（JICA） ひろしま祈りの石国際教育交流財団

＊青字は南ア以外への支援

2003年に平林薫駐在員（のちにプロジェクトマネージャー）がジョハネスからダーバンに移住したことがきっかけとなり、ダーバンに TAAA 南ア事務所ができました。先の10年間は、NGO や州政府など現地の協力団体に教育物資を寄贈することで、間接的に学校教育支援を行ってきましたが、次の10年間は、南ア事務所を拠点に TAAA が直接学校やコミュニティに関わり支援を始めた時期でした。南ア各地には引き続き本や移動図書館車を送りながら、徐々に活動の軸足を南ア事務所近隣の学校支援へと移していったのです。

先ずは、ダーバンにある NGO、ELET と協同で、JICA 草の根事業として生徒たちを対象としたエイズ予防・保健指導のプロジェクトを行い、続いて同じく JICA 事業で学校菜園プロジェクトを行いました。この間、ELET からは草の根でのプロジェクトの進め方について多くのことを学びました。図書支援も開始し、プロジェクトマネージャーの平林薫と現地 TAAA スタッフは移動図書館車で対象校を巡回し、本の貸し出しを始めました。

このように直接学校を訪問し、先生や生徒と触れ合うなかで、現地のニーズやポテンシャルを細やかに把握することができるようになりました。お腹を空かせていて「給食が一日の主な食事」の生徒が多いこと、やさしい英語の本を読みたがっていること、低学年で算数に躓いている生徒が多いこと、サッカーが大好きだけどボールはなくペットボトルなどを代用していること、アパルトヘイト政策の影響で農村は未発達だが有機栽培に適した地域であることなど。国内では、出来るだけ現地のニーズに合うものを送ろうと、絵本、中古の算数セット、サッカーボールをせっせと集めるようになりました。

南アがワールドカップの主催国になったこともあり、ウェブサイトをみたサッカー好きの大学生や若い男性たちが、ボールを持って TAAA の作業所を訪れるようになり、「サッカープロジェクト」が出来ました。このプロジェクトは、今まで特に南アに関心がなく、アパルトヘイトを知らない若い日本人が、サッカーをきっかけに南アを知ることで、国際協力にも関心をもつようになる、という日本側のメリットもありました。偏見なく純真な気持ちで南アと向き合い始めたサッカー青年たちから、古参メンバーも爽やかなエネルギーをもらいました。南アの先生からは「勉強が嫌いでも、休み時間に本物のボールでサッカーすることを楽しみに、１時間半以上かけて通学する子もいる。ドロップアウト対策にもなっている」と大変喜ばれました。

現地語の絵本が不足していることを知り、対象校の校長先生と協力して、日本語の絵本「ぐりとぐら」を集めて現地語訳を貼り付ける「ぐりとぐら」プロジェクトも立ち上げました。校長先生が英語版を現地語に訳してくれたのです。国内メンバーは、現地語（ズールー語）に触れることができて、楽しく取り組むことができました。異文化に触れながら国際協力ができるこの取り組みには、高校生や企業の社会貢献部の方々も興味を持ち、参加者の輪が広がりました。

2010年に、TAAA 事務所はダーバンからウグ郡ヒバディーンに引っ越します。ウグ郡は都心から遠く離れた貧困地域です。TAAA は、この地域で JICA の学校菜園プロジェクトを単独で開始し、また移動図書館車で巡回し図書活動も展開していきます。この頃になると日本からの本・教材の送り先は、TAAA 南ア事務所に絞られるようになりました。

これまで本や移動図書館車を送ってきた各地域の団体からは、年に一度活動報告書を提出してもらい、進捗状況を確かめる作業は続けていきました。送った一台の移動図書館車を丁寧に運行し続ける NGO もあれば、大規模な計画を立てながらも予算不足で運行が不活発な行政など、報告内容は様々でした。応援したりプッシュしたりして協力団体とは関係を続ける一方で、私たちは現地プロジェクトマネージャーを中心に学校やコミュニティに直接丁寧に関わっていきたいとの想いが年を追うごとに強くなっていきました。

2011年には、代表が創立者の野田千香子から副代表だった久我祐子に交代します。そしてその年に、東日本大震災が起こりました。TAAA はこれまでの活動経験を生かして、本、文具、玩具を集めて、被災地に送る活動をしました。南アからはたくさんの熱い応援メッセージが届きました。（久我 祐子）

日本から届いた本・教材を事務所に搬入する現地のスタッフや支援者たち。年に一度の壮絶な力作業。

東日本大震災直後に、日本に応援メッセージを書いてくれた女の子たち

●2012年～2023年

年度	主な活動	英語の本寄贈（冊）	その他の寄贈	助成団体
2012	●特定非営利活動法人になる（2013年２月） ●図書支援活動　KZN 州ウグ郡３地域の対象校30校中心　移動図書館運行、図書室設置、図書委員会設立、司書教師研修など ●学校菜園プロジェクト（JICA 草の根） ●南ア視察訪問　多摩大学学生・卒業生による現地サッカー指導、交流 ●国内被災地支援　●TAAA 20年記念式典	15,671	算数セット　85箱 サッカーボール197個	国際協力機構（JICA） 国際ボランティア貯金助成金 ひろしま祈りの石国際教育交流財団 彩の国さいたま国際協力基金
2013	●図書支援活動　ムタルメ・トゥートン学区中心32校　図書委員会生徒の育成にも力を入れ始める ●学校・コミュニティ菜園支援「学校を拠点とした有機農業促進のモデル地域作り」ウグ郡ムタルメ・トゥートン学区中心40校（JICA 草の根） ●サッカー練習マニュアルを作成・配布　●南ア視察訪問 ●国内被災地支援	11,949	算数セット　72箱 サッカーボール139個	国際協力機構（JICA） 国際ボランティア貯金助成金
2014	●図書支援活動　●学校・コミュニティ菜園支援（JICA） ●サッカー支援　●南ア視察訪問　●外務大臣表彰を受賞 ●南ア大使館主催民主化20周年祝賀講演会　講演者・パネリスト参加	12,078	算数セット　153箱 サッカーボール460個	国際協力機構（JICA） 国際ボランティア貯金助成金 埼玉県国際交流協会
2015	●図書支援活動　●学校・コミュニティ菜園支援（JICA）　●サッカー支援 ●南ア視察訪問　**●元対象校の図書委員会卒業生モンドリ・チリザが TAAA スタッフになる（以後８年間、図書指導員を務める）**	10,539	算数セット251　箱 サッカーボール　65個	国際協力機構（JICA） 国際ボランティア貯金助成金 ひろしま祈りの石国際教育協力財団
2016	●学校・コミュニティ菜園支援「有機農業塾を拠点とした農村作り」開始（JICA 草の根） ●図書支援活動およびパソコン指導開始（N蓮）ムタルメ・トゥートン学区30校　パソコン操作指導を始める　●日本の高校生とのサッカー交流 ●南ア視察訪問　●ムプマランガ州の保育園に絵本を寄贈	16,729	算数セット　126箱 サッカーボール　85個	国際協力機構（JICA） 外務省 NGO 連携無償資金協力 三井住友銀行ボランティア基金 ひろしま祈りの石国際教育協力財団
2017	●学校・コミュニティ菜園支援（JICA） ●図書支援活動およびパソコン指導（N蓮） ●日本の算数セットを使ったバイリンガル算数指導（N蓮） ●サッカー支援　●南ア現地視察訪問 **●長年活躍した移動図書館車「イテンバ号」がリタイアし、KZN 州教育省に固定図書館として譲渡、教育センターに設置。**	12,115	算数セット　111箱 サッカーボール　28個	国際協力機構（JICA） 外務省 NGO 連携無償資金協力 ひろしま祈りの石国際教育協力財団
2018	●学校・コミュニティ菜園支援（JICA）　東京農業大学から学生２名が派遣。調理・栄養の研修実施　●図書支援活動およびパソコン指導 ●地域少年サッカーチームの交流試合サポート　●現地視察訪問 ●レソト王国大使館の要請を受け、同国の NGO に本を送る ●現地 JICA ボランティアからの要請を受け、ルワンダ共和国に「ぐりとぐら」を送る。ルワンダ語訳が出来る。			国際協力機構（JICA）
2019	●学校・コミュニティ菜園支援　「有機農業塾を拠点とした農村作り」（JICA）の終了と現地への引き継ぎ作業 ●図書支援活動（N蓮）　ドゥエシューラ学区12校対象　図書室設置、図書委員会設立、司書研修会など　●サッカー支援 ●ウガンダ共和国「あしながウガンダレインボーハウス」へ英語の本寄贈 ●マーシャル諸島テラップ小学校に英語の本と算数セット寄贈	13,817	算数セット　145箱 サッカーボール　62個	外務省 NGO 連携無償資金協力 ひろしま祈りの石国際教育協力財団
2020	新型コロナ禍の影響で活動を一部制限。国内での梱包作業は数回中止。南アでは感染防止を徹底し工夫しながら出来ることを無理なく続ける。 ●図書支援活動およびパソコン指導（N蓮） ●学校閉鎖間は、コミュニティーセンターで本を配布　●南ア視察訪問 ●サッカー支援			外務省 NGO 連携無償資金協力 ひろしま祈りの石国際教育協力財団

2021	新型コロナ禍の影響で活動を一部制限。国内での梱包作業は数回中止。南アでは感染防止を徹底し工夫しながら出来ることを無理なく続ける。 ●図書支援活動およびパソコン指導（N蓮）　●在南ア日本大使館から現地視察訪問、ミーティング　●対象校12校司書教師へのアンケート実施 ●中央大学杉並高校が「ぐりとぐら」現地語ラベル貼りに協力。生徒たちによる英訳本、栞作り	10,644	算数セット　354箱 サッカーボール 256個	外務省 NGO 連携無償資金協力
2022	●学校図書活動サポート・モニタリング ●算数セットを使った算数授業のサポート　●横浜女学院生徒から寄贈された文具・教具を対象校生徒に配布　●現地の老人クラブにサッカーボール寄贈 **●最後のコンテナ輸送・搬出作業　タカセ（株）から国内運送・通関業務の無償支援を受ける**　●国内の TAAA 作業所閉鎖　後片付け ●絵本を国際小包船便で発送　●「ぐりとぐら」現地語ラベル貼り **●本・算数セット・ボール募集終了**	5,610	算数セット　343個 サッカーボール 138個	ひろしま祈りの石国際教育交流財団
2023	**★会員総会で年度末に会を解散することが議決され、事務・法的諸手続きを進める。** ●学校図書活動サポート・モニタリング　●パソコン再指導と継続へのモニタリング・アドバイス　●司書教師へのアンケート調査（ムタルメ・トゥートン両学区元対象校28校、ドゥエシューラ学区現対象校12校）　●図書委員会生徒へのインタビュー調査　●横浜女学院の寄付によるペン・鉛筆を対象校生徒に配布　●最後の南ア視察訪問　●「ぐりとぐら」現地語ラベル貼り　●絵本郵送　●横浜女学院訪問および講演 **2023年12月31日　特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会　解散**	344		

＊青字は南ア以外への支援

2012年 TAAA は20周年を迎え、翌年には任意団体から特定非営利活動法人になりました。とはいえ国内での活動内容や方法は今までと変わらず、引き続き全国から本、サッカーボール、算数セットを集め、毎月作業所で楽しく梱包作業をして、年に一度コンテナ海上輸送で南アに送り続けました。

南アでの活動においては、「モデル地域を作りたい！」という夢を持ち、対象地域を集約して人を育てることに注力するようになっていきました。対象地域をウグ郡に移してからも引き続き、移動図書館車で学校巡回しながら、少しずつ学校に図書室を設置していきましたが、ハード面の充実だけでなく、図書委員会を設立して司書教師や図書委員会生徒への指導にも力を入れていきました。2016年からは、N 連事業（外務省の日本 NGO 連携無償資金協力）で図書活動の一環として、パソコン基礎技能指導も行いました。対象地域の若者は、パソコンに触れる機会がないため進学や就職で苦労をします。学校でパソコン基礎教育を施すことで彼らの進路を少しでも拓く一助になればと思いました。また、小学校では日本の算数セットを使った算数授業のサポートも行い、先生たちに算数セットの効果的な使い方をデモンストレーションしました。

学校・コミュニティ菜園プロジェクト（JICA 草の根事業）は、学校を拠点に家庭やコミュニティに普及させることで農村作りを目指す活動を2018年まで続けていきました。

サッカープロジェクトは、ボールを寄贈するだけでなく、現地に大学生や高校生が訪問しサッカー交流や指導をするようになり、双方で大いに楽しみました。図書、菜園、サッカーと三つのプロジェクトが確立したことにより、現地では色々なタイプの生徒を取り込むことができ、また日本でも、様々なバックグランドの方々がTAAAの活動に関心を寄せてくれるようになりました。

振り返ると最後の12年間は、以下の三つの流れが特徴として挙げられると思います。

一つ目は、地元の文化や人々の意識がTAAA活動に入ってきたことです。図書室の壁や天井はカラフルな現地色の装飾や遊び心いっぱいの手作りポスターで飾られていきました。様々な社会問題を人権の視点で訴えるポスター（手作り）が貼られた図書室もあり、南アの歴史が育んだ人権意識の高さが反映されていきました。図書推進イベントとして「女性の日」や「若者の日」などの国の祝祭行事が図書室で開催されるようになり、教師は生徒たちに関連ある本を紹介し読書と歴史の理解を推進するようになりました。図書室で生徒たちは幾度となく音読を披露してくれましたが、歌うように読み上げたり、ジェスチャー付きだったりと躍動感にあふれていました。私たちはこのように図書活動に現地色が深まっていく変化を興味深く眺め、またリスペクトしてきました。

二つ目は、活動が学校を通して地域へ普及していく流れでした。これは菜園活動で顕著でした。学校菜園で有機農業を学んだ生徒、保護者、卒業生が、家族や近隣住民に技術を教えて一緒に家庭菜園やコミュニティ菜園を始めることで、学校周辺の地域で有機農業が普及していきました。このプロセスこそが、農村が未発達な対象地域では画期的で、TAAAはJICA事業を続けることでこの流れを後押し、最終的には地域住民のための有機農業塾を作りました。

三つ目は、TAAAのプロジェクトで指導を受けた人たちが、次の段階では指導する側に回り、未経験の人たちに経験や技術を教えるサイクルが出来たことです。これによりヒューマンリソースが少しずつ豊になり、TAAAの活動の質も上がっていきました。典型例は、TAAAの対象校で図書委員会生徒として活躍し後にTAAA現地スタッフになり最後まで勤めてくれたモンドリ・チリザです。図書委員会生徒たちへの指導を進めるにあたって、彼の経験から得た知識はなくてはならないものでした。自分たちが育っていく環境のなかで図書室がなかったため、学校図書室と物置の区別がつかなかった先生たちが、図書室運営の経験と技術を積んでいき、他の教師を教えるようになりました。また、異動先の図書室のない学校で、図書活動を始める先生や、別の学区でTAAAの司書教師研修の講師を務めてくれた先生も出てきました。図書委員会生徒たちは、同級生や後輩に教えるだけでなく、卒業後も進学先の学校で図書委員会活動を盛り上げていくようになっていきました。

菜園においても、JICA の先行菜園プロジェクトで初めて農業を学んだ生徒や住民が、次のプロジェクトでは教える側になっていく流れが、「学校からコミュニティへ」の普及と同時進行で自然に出来てきました。JICA 事業後に地元の関係者に引き継がれた有機農業塾 MOATS の内外では、今でも地元住民間の栽培技術の教え合いが続いています。

司書教師研修で教え合う教師たち

これらの３つの流れは一言でいえば、「TAAA が始めたプロジェクトを、自分たちの文化も取り入れて、教え合いながら自分たちのものにしていった」過程であったと捉えることが出来るのではないでしょうか。これは、TAAA には専門家がいないため、現地の人たちの力を最大限に活用しながら事業を推進してきたことと、その過程でプロジェクトマネージャーが一貫して彼らの自主性を尊重してきたことが奏功したのだと思っています。

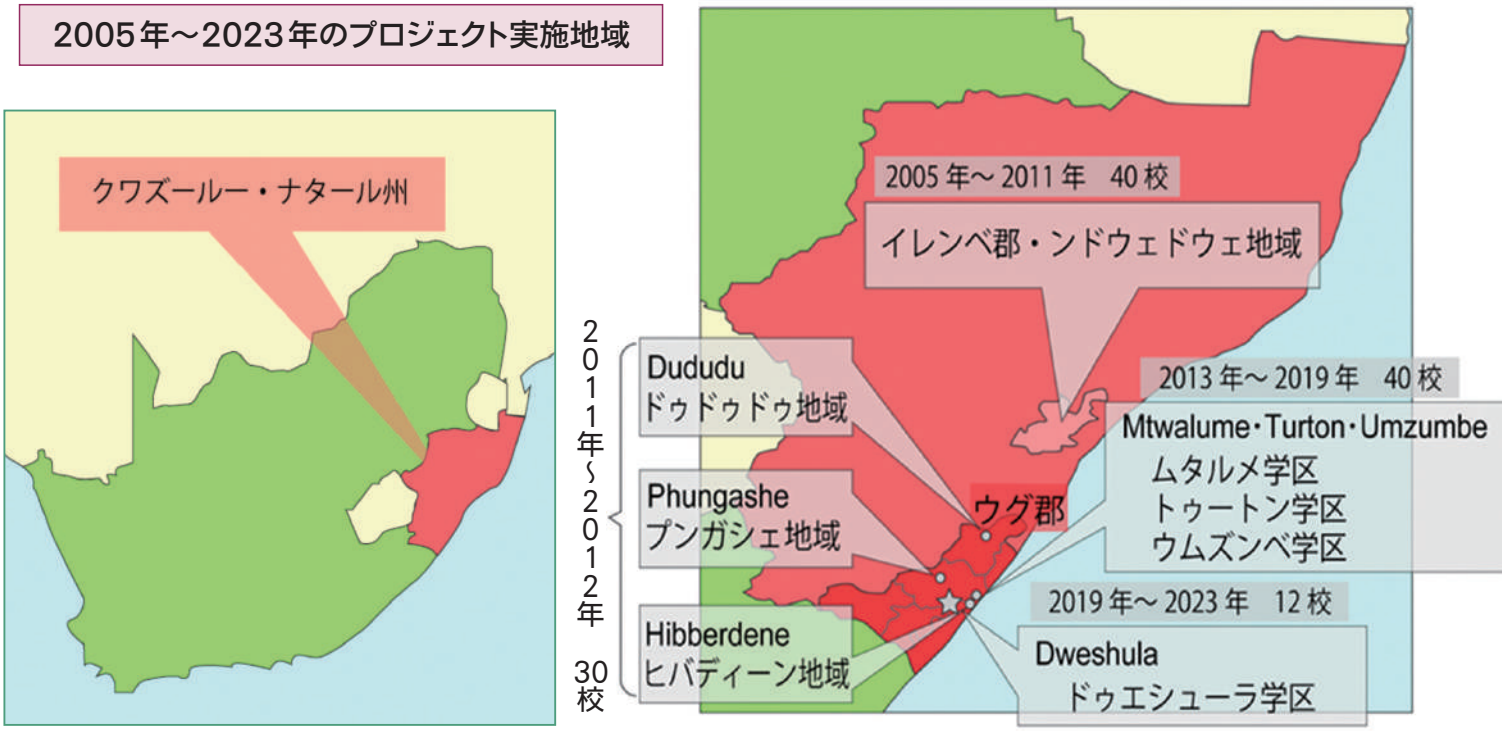
農業塾での地域住民の教え合い

TAAA 終了後の事業の継続については、まったく問題がないわけではありません。先ずは、州教育省の学校図書など課外活動への予算不足が挙げられます。また、現地には引き継ぎの習慣があまりなく、今まで上手くやっていた図書活動や学校菜園が、担当教師の異動で途絶えてしまうことが多々あります。校長と担当教師との連携が必ずしもうまくできていないケースもみられます。TAAA は最後の３か月、これらの弱点克服へのアドバイスを含めて、州教育省関係者や学校と引き継ぎ作業に汗を流しました。

日本側では、2022年に諸事情により作業所を閉鎖することとなりました。その後理事会は会の今後について話し合いを重ねた結果、2023年末に会の解散が提案され、2023年５月の会員総会で解散案は可決されました。2023年12月31日に、特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会は、現地にしっかりバトンを渡し、解散致しました。

多くの方々のご支援・ご協力のお蔭で、31年間で英語の本491，709冊、移動図書館車28台、算数セット2，091個、サッカーボール2，344個を送ることができました。（久我祐子）

2005年～2023年のプロジェクト実施地域



会報最終号メッセージ

TAAA南ア事務所代表　**平林　薫**

2003年にダーバン拠点のNGOであるELETと共同で行ったJICA草の根支援事業にTAAAのプロジェクトマネージャーとして参加させていただいて以来20年、TAAA事業の柱である“図書・菜園・スポーツ支援活動”に従事してきた。私自身、充実した日々を送ることができ、活動を通して地域の学校改善、生徒たちの教育や生活の向上に貢献できたのは、TAAAメンバー及びサポーターの皆さまの長きに渡る多大なご協力・ご支援があったからこそであり、ここに改めてお礼申し上げます。

TAAA創設者である野田さんは、当時ほとんど社会貢献活動の経験がなかった私に大役を任せてくださり、事業の進め方に不安な時も“大丈夫、よくできてますよ”といつも励ましてくださった。帰国中に話が盛り上がってあっという間に日が暮れているということもしばしばで、野田さんの南アの人たち・子どもたちへの思いに共感し、その思いを現地にしっかりと届けることが私の役割だと感じた。野田さんがこのような機会を与えてくださったこと、情熱を持ってここまで会を続けてくださったことに改めて感謝の気持ちをお伝えしたい。現代表の久我さんには、事業の規模が大きくなる中で、実務面でも精神面でも支えていただいたことに深く感謝している。助成金の申請及び報告作業の煩雑さ、難しさは並大抵ではなく、久我さんの事務処理能力の高さはもちろん、物事を深く洞察・分析する力でリードしてくださったからこそ、現地では安心して活動に集中することができた。また、浅見さん・北爪さんをリーダーとし、多くの方々が継続して書籍の収集・梱包・発送作業に携わってくださったことで、現地の学校の図書環境を整えることができた。そして日本全国のサポーターの皆さまから物資及び資金のご支援とご協力をいただき、それぞれの力がまるでパズルがはまり合うように一つの大きな力となり、活動を推進できたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

この20年、KZN州内の約100校での活動を通して多くの学校関係者、生徒たちに出会った。私自身、強く印象に残っているのは、移動図書館車の訪問に目を輝かせて本を借りに来た生徒たちの姿だ。今では大学進学や、社会に出たりしているだろう彼ら・彼女らの心の中に、当時借りて読んだ本や経験が楽しい思い出として残っていてくれたらうれしい。そして、次の世代の子どもたちに読書の楽しさを伝えてくれることを願っている。ウグ郡に移ってからは、ムタルメ及びドゥエシューラ学区の学区長を歴任されたザミサさんには大変お世話になった。彼女が各対象校の校長にしっかりと事業について伝えてくださったことで、私たちは学校での活動をスムーズに進めることができた。現在ルトゥリ高校11年生のアマーシェさんと初めて会ったのは彼女がエシバニニ小の３年生だった時だ。並外れた読解力を持ち、TAAA寄贈の本を大喜びでかぶりつくように読んでいた彼女は、当時すでに詩やストーリーを書き、可愛い絵柄の入ったメッ

アマーシェちゃん

セージカードも作ってくれた。図書指導員モンドリさんの母校でもあるルトゥリ高では長くコンテナ図書室を利用していたが、今年に入って念願の図書室が設置できたところで、彼女もとても喜んでいる。現在も創作活動を続けているとのことで、“小さい頃のあなたを主人公としたストーリーを書いてみたら面白そうね”と伝えると、“書いてみます”と答えてくれた。来年は12年生なのでマトリック（高校卒業試験）準備で忙しくなると思うが、アマーシェちゃんの物語が出来上がるのを楽しみに待っている。

有機菜園活動に関しては、津山さんからご紹介いただいたリチャード・ヘイグ氏の熱意ある指導により、地域には小規模ではあるが有機農業を営む人々や、有機農業指導のできる人材が出てきている。特にMOATS（有機農業塾）内で畑づくりをしているンギディさんは有機農業の伝道者のようだ。学校菜園対象校では東京農大の故稲泉先生のご訪問を誇りに思い、今でも先生の写真が飾られ、生徒たちの心に刻まれている。ムタルメ学区対象校シボングジェケ高の菜園メンバーだったボノ君は、先生のご訪問時に代表して自分たちの活動についてお話し、先生からいただいたアドバイスやお褒めの言葉が大きなモチベーションとなったようだ。彼は高校卒業後に農業塾の研修を受講して自分たちの畑を作り始め、後に現地 NGO の農業指導員となった。現在は地域の人たちと協同組合を設立し、有機農家として活躍している。事業を通して私自身も有機栽培の基礎を学ばせてもらい、現在は楽しく野菜やハーブ作りを行っている。

有機農業指導をするリチャード・ヘイグ氏

そしてサッカーボールの寄贈は、対象校の多くの生徒たちが充実した学校生活を送るための何よりのプレゼントとなった。現在でも学校や地域の人たちに寄贈して最も喜ばれるのはサッカーボールなのである。

アパルトヘイトが終わり、民主的な国家として再出発した南アは、この約30年で良くも悪くも変化を遂げたが、私自身にとって最も愛すべき国であることに変わりはない。1994年に初めて南アを訪れ、ダーバンから南にバスで移動していた際、道路上の Hibberdene（ヒバディーン）の看板を見て“こんな所に住みたいなー”と思ったことを今でも鮮明に覚えている。そしてその願いが叶ったことは奇跡のようにも思われる。南アと出会って30年、ますますこの国への思いが強くなるのは何故だろう。広大な自然、穏やかな気候と美味しい食べ物…点。しかし何と言っても南アの人たちの魅力だ。苦しい状況にあっても明るさを失わず、“何とかなるさ”とへこたれない強さ。そして他者を敬い、助け合う心、ウブントゥ（Ubuntu 人間性・人情）を持ち続けているところである。KZN 州北西部のグラウトヴィル出身の元教師であり、ANC の党首を務め、ノーベル平和賞受賞者でもあるアルバート・ルトゥリ氏は、1958年にジョハネスバーグでのスピーチの中で以下のように話している。“私はこの多様性を持った南アが世界に向けて新しい民主主義の姿を示すことができると信じている。世界に向けた新しい実例となることは容易ではないが、我々は肌の色ではなく、人間であることの価値において同質である（homogeneous）南アを作るべきなのだ”。これがウブントゥの精神であり、ルトゥリ氏は南アの人々の持つウブントゥを信じていたのである。と

ころで、TAAA の活動は“同じ人間として、厳しい状況下にある人たちに精一杯の支援をする”ものである。これはまさに私たち TAAA のウブントゥであり、活動を通して南アの人たちのウブントゥと繋がったと言えるのではないだろうか。

これまで深刻な事故や事件に巻き込まれずに事業を継続して行うことができたのは、有能な現地スタッフに恵まれたからであり、これまで活動に携わってくれたすべてのスタッフに感謝の気持ちを伝えたい。運転がずば抜けて上手で、移動図書館車で熱心に図書活動を推進してくれたマイケルさんとカムレラさん。学校菜園活動で生徒たちに若い男性も畑づくりに携われることを教えてくれたシャリさんとボングムーサさん。男性スタッフの中で紅一点だったジンシェさんは、TAAA 事業に参加したことがきっかけで教師になることを決めたという。そして、事業対象校ルトゥリ高校の図書委員として活躍したモンドリさんとはすでに10年以上の付き合いとなる。自らの経験を基に学校図書室の重要性、読書の楽しさを熱心に後輩に伝え、最後までしっかりと指導員を務めてくれた。彼のおじいさん譲りの“英知”には目を見張るものがあり、日常でも心強い相談相手となってくれている。このように地域には優れた能力を持った若者が多いのだが、現状ではその力を発揮できるような機会が十分にあるとは言えない。人々の持つウブントゥの心も少しずつ失われてきているようにも感じられる。私自身、今後も地域の人たちと共に、何らかの形で学校および地域社会の改善に向けた活動に携わきたいと考えている。

カムレラさん、シャリさん、ボングムーサさん

ご協力をいただいてきた主な団体

●（株）商船三井　●オーシャンネットワークエクスプレスジャパン（株）　●日本郵政（国際ボランティア貯金）
●タカセ（株）　●在南ア日本大使館（草の根無償資金協力）　●（一財）ひろしま祈りの石国際教育交流財団
●外務省（日本NGO連携無償協力資金）　●（公財）パブリックリソース財団　●横浜女学院高等学校
●アオバジャパンインターナショナルスクール　●セント・メリーズ・インターナショナルスクール
●中央大学杉並高等学校　●青山学院高等部　●NPO法人SB .Heart Station　●レイクランド大学
●東京インターナショナルスクール　●アメリカンスクールインジャパン　●甲南大学体育会サッカー部
●多摩大学フットサル部　●クリスチャンアカデミーインジャパン　●横河グループ　●日産自動車（株）
●学校法人ラサール学園　●（株）ベネッセコーポレーション　●庭野平和財団　●埼玉県国際交流協会
●（株）公文教育研究会　●（株）バリューブックス　●リベロスポーツクラブ　●THAN球プロジェクト
●康貿易商事（株）　●学校法人河合塾　●西町インターナショナルスクール　●シャロームキリスト教会
●横浜インターナショナルスクール　●SWETの会　●（独）国際協力機構（JICA）　●学習院高等科
●ブリティッシュカウンシル　●（株）フェリシモ　●ラッシュジャパン合同会社　●フットサルカフェ KEL
●ユナイテッドピープル（株）（イーココロ！）　●ELS・JAPAN　●清泉インターナショナルスクール
●（株）三井住友フィナンシャルグループ　●日放労管理系列（NHK）　●ソフトバンク（株）（つながる募金）
●CLASSIC INC　●浦和学院高等学校　●伊藤忠商事（株）CSR　●NPO法人アフリカ日本協議会
●サンモールインターナショナルスクール　●公益社団法人日本フィランソロピー協会　●（株）リコー
●コロンビアインターナショナルスクール　●芦屋インターナショナルスクール　●Kインターナルスクール
●（財）ゆう貯財団　●NPO法人セイエン　●NPO浦和スポーツクラブ　（敬称略：順不同）